

シラバス案提出様式（応募・提出用）

【記入上の注意】

- 本学では、応募者の専門分野を活かしつつ、**現代社会の緊急課題（例：気候変動、環境危機、社会的格差、ジェンダー、人権、AI社会、グローバル経済等）**に関連した「テーマ主導型」かつ「問題解決志向型」の教養科目を構想していただきます。
- 以下の様式に従い、**1つの授業科目案**を作成してください。
- 記載は簡潔で構いません（この指定用紙に収まる程度）。
- 実際の担当科目となる可能性があるため、専門性を活かしつつも、主に**学部1・2年生を履修対象**とし、所属学部・学科にかかわらず学生が共通に学ぶ教養科目ことを念頭にご記入ください。
- **別紙資料にて参考例を示しています**。参考にして簡潔なものを作成してください。

1. 科目名（テーマ）

（例：「気候危機と持続可能な社会」「AI時代の人間と倫理」「文学で読み解く現代社会」など）

◎

2. 授業の目的（200字以内を目安に）

（本授業を通して学生にどのような力や理解を身につけさせたいか、また現代課題とどのように関連づけるかを明記してください。）

◎

3. 授業内容（全13回の概要） 本学は1科目を105分授業 × 13回で実施します

（各回のタイトルと簡単な内容を示してください。1行～2行程度で）

第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	

4. 応募者の専門分野との関連（200字以内）

（この授業が応募者の専門分野や研究活動とどのように結びつくかを簡潔に説明してください。）

シラバス案 例

例1 社会学系

テーマ：グローバル化と社会的不平等

目的：現代社会における格差拡大の実態を理解し、学生自身が地域や国際社会で実行可能な解決策を考える。

内容（13回）

1. 導入：授業の目的と方法
 2. 世界の所得格差の現状
 3. 日本における教育格差
 4. 雇用と若者の不安定労働
 5. ジェンダー格差とケアワーク
 6. 移民と多文化共生の課題
 7. 健康格差と社会政策
 8. 環境問題と不平等
 9. デジタル格差と情報アクセス
 10. 格差是正のための国際的取組（SDGs）
 11. 日本の地域社会での解決策事例
 12. 学生によるグループ課題発表
 13. まとめと今後の展望
-

例2 環境科学系

テーマ：気候危機と持続可能な未来

目的：気候変動の科学的基盤と社会的影響を理解し、地域レベルで可能な持続可能な行動を考える。

内容（13回）

1. 気候変動とは何か
2. 温室効果ガスと地球温暖化
3. 異常気象と災害リスク
4. 生態系と生物多様性の危機
5. エネルギー問題と再生可能エネルギー

6. 脱炭素社会への移行課題
 7. 都市と農村の持続可能性
 8. 食と環境問題
 9. 国際協力と気候外交（COP, パリ協定）
 - 10.日本の政策と地方自治体の取り組み
 - 11.個人とコミュニティの行動変容
 - 12.学生による問題解決提案発表
 - 13.全体のまとめと将来展望
-

例3 心理学系

テーマ：ストレス社会を生き抜くレジリエンス

目的：心理学的視点から現代社会のストレス要因を理解し、学生自身のレジリエンス（回復力）を育む方法を探る。

内容（13回）

1. レジリエンスとは何か
 2. 現代社会のストレス要因（学校・職場・SNS）
 3. 心理的健康と社会的サポート
 4. マインドフルネスと自己調整
 5. ポジティブ心理学の応用
 6. 災害とトラウマからの回復
 7. 青年期とアイデンティティ形成
 8. 多文化社会における心理的適応
 9. ジェンダーとメンタルヘルス
 - 10.社会的孤立とつながりの再構築
 - 11.学生グループによる事例検討
 - 12.レジリエンスを高める実践ワーク
 - 13.まとめと自己の行動計画立案
-

例4 哲学・倫理学系

テーマ：AI時代の人間と倫理

目的：AIの進展が人間社会にもたらす倫理的課題を考え、テクノロジーと人間の共生のあり方を探る。

内容（13回）

1. AI とは何か：基礎理解
 2. デジタル社会と監視問題
 3. プライバシーと個人情報保護
 4. 自動運転と責任の所在
 5. AI と雇用の未来
 6. フェイクニュースと情報操作
 7. ジェンダー・人種バイアスの問題
 8. 医療分野における AI 活用の倫理
 9. 戦争と AI（ドローン・兵器化）
 10. 国際的な AI ガバナンス
 11. 哲学から見た「人間性」と技術
 12. 学生による討論と政策提案
 13. まとめと人間の未来像
-

例5 政治学系

テーマ：グローバル危機と国際政治

目的：気候変動、戦争、移民問題など国際社会の緊急課題を政治学的に分析し、学生が政策提案を考える力を養う。

内容（13回）

1. グローバル危機とは何か
2. 国際政治の基本構造（国家・国際機関）
3. 気候変動と国際協力（パリ協定など）
4. 武力紛争と平和構築
5. 国際的な人権保障制度
6. 移民・難民問題
7. グローバル経済と不平等
8. 国際保健とパンデミック対応
9. 国連と多国間協力の課題
10. 日本外交の現状と課題
11. NGO・市民社会の役割
12. 学生による模擬国連ディベート
13. まとめと学生の政策提案発表

例6 農学系

テーマ：食と農から考える持続可能社会

目的：農業・食料問題を通じて地球規模課題（環境・人口・健康）を理解し、持続可能な食の未来を考える。

内容（13回）

1. 世界と日本の食料問題の現状
2. 農業と環境負荷
3. 食料安全保障と国際関係
4. 遺伝子組換え・ゲノム編集技術
5. 気候変動と農業への影響
6. 水資源と農業
7. 土壌劣化と生態系サービス
8. 食文化と多様性
9. フードロスと持続可能な消費
10. アグリテックとスマート農業
11. 日本の農村と地域再生
12. 学生グループによる問題解決提案
13. まとめと行動計画立案

例7 文学系

テーマ：文学で読み解く現代社会の危機

目的：文学作品を手がかりに、環境危機・戦争・差別など現代的課題を文化的・批判的に考える。

内容（13回）

1. 文学と社会問題：導入
2. 戦争文学から見る平和の問い
3. ディストピア文学と環境危機
4. 移民・難民を描く文学
5. ジェンダー表象と文学

6. ポストコロニアル文学と差別
 7. 現代日本文学と社会の不安
 8. グローバル文学の広がり
 9. 文学と記憶・トラウマ
 10. 文学における未来像
 11. 読解を通じた批判的思考演習
 12. 学生による作品分析発表
 13. 総括：文学から考える人類の未来
-

例8 歴史学系

テーマ：歴史から考える現代の危機

目的：歴史的事例を参照し、現代のグローバル課題に対する理解と解決の視点を養う。

内容（13回）

1. 歴史学的アプローチとは
 2. 気候変動と歴史（小氷期など）
 3. 疫病の歴史とパンデミック対応
 4. 戦争と国際秩序形成
 5. 植民地主義と不平等の起源
 6. 産業革命と環境負荷
 7. 社会運動と人権の拡大
 8. グローバル化の歴史的過程
 9. 歴史から見るジェンダー関係
 10. 科学技術と社会の変容
 11. 歴史的比較からの政策的示唆
 12. 学生による歴史事例研究発表
 13. まとめ：歴史から未来を構想する
-

例9 生物学系

テーマ：生命科学から考える地球の未来

目的：生物多様性・感染症・遺伝子技術などを通じて、人間と自然の共生のあり方を探る。

内容（13回）

1. 生命科学の基礎と社会的意義
 2. 生物多様性の危機
 3. 絶滅危惧種と保全生物学
 4. 感染症と人類史
 5. パンデミックとワクチン開発
 6. 遺伝子編集と倫理問題
 7. 食料生産とバイオテクノロジー
 8. 環境汚染と生態系への影響
 9. 海洋生物資源と持続可能性
 10. 生態系サービスと人間社会
 11. 科学技術とリスク管理
 12. 学生によるグループ課題発表
 13. 総括と未来への提言
-

例10 経済学系

テーマ：持続可能な経済と社会的公正

目的：経済成長と社会的課題（格差、環境、福祉）の関係を理解し、持続可能で公正な経済のあり方を考える。

内容（13回）

1. 現代経済が直面する課題：導入
2. 経済成長と環境負荷
3. 貧困と所得格差の経済分析
4. グローバル化と不平等
5. 雇用の変化と若者の労働問題
6. デジタル経済とプラットフォーム資本主義
7. 公共財と社会保障
8. 環境経済学とカーボンプライシング
9. 国際経済危機の事例分析
10. 持続可能な開発目標（SDGs）と経済政策
11. 日本経済の課題と地方創生
12. 学生による政策提案発表
13. まとめと将来への展望

例 11 生活科学系

テーマ：暮らしと共生のデザイン

目的：衣食住を中心とした生活科学の視点から、環境・ジェンダー・福祉と結びつく現代的課題を理解し、日常生活からの解決策を考える。

内容（13回）

1. 生活科学とは何か：学問の広がり
2. 衣生活とサステナビリティ（ファストファッション問題）
3. 食生活と健康（栄養・フードシステム）
4. 住まいと環境デザイン
5. 高齢社会と生活支援
6. ジェンダーと家庭生活の変容
7. 消費文化と持続可能性
8. 災害と生活再建
9. 家庭経済と社会的格差
10. 地域社会と共生の仕組み
11. グローバル化するライフスタイルの課題
12. 学生による生活改善プロジェクト発表
13. 総括：持続可能な暮らしの未来